

第1回環境学習小委員会における主な意見

阿蘇草原再生と草原環境学習の基本的考え方について

核となる考え方の共通認識を持つことにより、幅広い様々な取り組みが連携

- ・ 環境学習の対象、取り組みの内容はさまざま。さまざまな活動を同じような認識で取り組んでいけるよう、共通認識を持つことで連携して輪を広げていける。それが小委員会の役割の中心。

「人の暮らしとのなかで作られた草原」はすべてに共通するテーマ

- ・ 草原再生は、千年引き継いできたものをまた千年引き継ぐということ。それには、情報を発信して学習していくことが大切。

キーワードは「後継者の確保」、そのための環境学習

- ・ 草原を管理してきた人々の暮らしと草原の管理が離れてきており、今後、草原を管理していく人、担っていく人たちをどうやって生み出すかということがいちばんのテーマ。入会権者だけでは実際にはできない。

地元の人々や子供たちが阿蘇の草原を再確認

- ・ 子供たちは草原のよさを知らない。農家の人が一番良く知っているが、今は封印されている。世代間を越えた草原のよさの再確認ができればと思う。
- ・ 地元の子どもたちに、地域の自然のすばらしさを知ってもらい、後継者育成につなげる。
- ・ 雑草と思われているものが、実は希少植物であることが多く、地元の人が植物に関する正確な知識を持ち、阿蘇の自然の豊かさを理解してもらいたい。
- ・ 教育と生物多様性の保全はセット。畜産や農業形態を、形を変えながらも元の状態に戻していきたい。
- ・ 子どもたちが草原体験をして、草原を維持するために農家の人々がどんな苦勞をしているか知ってもらいたい。牧野としては、みんなに現場をお貸ししたい。

阿蘇に来る多くの人々に、阿蘇の姿を伝える

- ・ 草原の成り立ちからこれまで維持されてきたことまでを、多くの人に伝えていくことが必要。その場合、対象者によってどういうアプローチの仕方があるのかということがポイント。
- ・ 多くの観光客が訪れるが、観光客に現場の人々の姿が伝わっていない。せっかく来る人々に阿蘇の姿を伝えていきたい。
- ・ 多くの方々に草原のことを知ってもらいファンになってもらい、場合によっては活動をしていただく。
- ・ キーワードは地域性の把握。草原と草原に関連する環境をどういう言葉で発信するかがポイント。
- ・ 次世代に草原を引き継いでいくために、現場が直面する問題を発信していくべき。

委員会への期待

小委員会としてのアクションを起こす

- ・ 小委員会として何かアクションを起こして欲しい。草原環境学習小委員会としての目標をもち、成果ができればいい。
- ・ 環境学習のセンターを、この委員会で運営することはできないか。
- ・ この委員会が運営する役目はおっていない。小委員会ではきっかけづくり。
- ・ 環境学習小委員会だけで自己完結する必要はない。提言として出す。

活動に関するコーディネイト機能

- ・ 阿蘇に来る人々と牧野組合など地元の方との、需要と供給を調整する場となり、組合が人々を受け入れることによる問題や悩み（情報）を一元化することにもつながればいい。
- ・ 子供たちが壮大な野焼きの体験や、植物の学習などができたらいい。受け入れには、大変な労力を要するので、それに見合う代償があればと思う。こうした材料があるので、作業に間に合うように要望を出していただきたい。
- ・ 牧野の人はもちろん関係者が集まって草原学習のカリキュラムを作り、次世代に引き継いでいくことが大切。自分たちで発信していくことが大切。
- ・ 後継者の育成を前提とするなかで、草原環境を知ってもらうための教材、学習の場をどう作っていくかがポイントになる。

地域内の活動との連携

- ・ デザインセンターが立ち上げた阿蘇地方のツーリズム協議会との連携。

地元との連携

- ・ 牧野組合、地元の人、地元の子どもたちに私たちがどうやって関わっていくかが一番の課題。
- ・ 体験学習を通して子供たちが草原に興味を持ち、草原を守るために農家の人が必要なことを行っているか、自分たちに何ができるか考える場を持ってもらいたい。現場としては学習体験の場を提供することはできるが、草地を踏み荒らされると困る。
- ・ 草原を見に人をできるだけ連れ出すということが、委員会のいちばんのテーマ。牧野にしわよせがいかないように調整を図っていかなければならない。
- ・ ツアーなどにおいて地元牧野組合員による案内を期待。
- ・ 牧野の人が伝えたい思いをプログラムの中に取り入れる。
- ・ 「現場で学ぶ」ことが重要。そのためには現場に迷惑をかけないということが大事。

学校との連携

- ・ 学校の授業に取り入れるため、学習指導要領の中にどう位置づけられるか。

人材確保、育成

- ・ 県の指導員など人材の共有化、現場でのレベルアップ研修。
- ・ 環境学習、エコツーリズム、体験学習などいろいろな分野を統括する人材バンク、コーディネイト機能。
- ・ 阿蘇に興味を持っている人々の力の活用。